

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



農事組合
法人

大地のめぐみ

～SDGs × 大地のめぐみ 持続可能な社会にむけた私たちの取り組み～

1 貧困をなくそう 	2 気候をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	6 安全な水とトイレを世界中に 	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 人や国の不平等をなくそう 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任つかう責任 	13 気候変動に具体的な対策を 	14 海の豊かさを守ろう 	15 陸の豊かさも守ろう 	16 平和と公正をすべての人に 	17 パートナーシップで目標を達成しよう 	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 2030年に向けて世界が共通した「持続可能な開発目標」です



SDGs（持続可能な開発目標）とは

SDGsは、2015年9月の国連サミットで150を超える加盟国首脳に参加のもと、全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことです。

SDGsは、先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標として、17のゴールとその課題ごとに設定された169のターゲット（達成基準）から構成されます。

それらは、貧困や飢餓から環境問題、経済成長やジェンダーに至る広範な課題を網羅しており、豊かさを追求しながら地球環境を守り、そして「誰一人取り残さない」ことを強調し、人々が人間らしく暮らしていくための社会的基盤を2030年までに達成することが目標とされています。

環境、経済、社会を三層構造で示した木の図



資料：環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト「持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究」より環境省作成

～SDGs×大地のめぐみ 持続可能な社会にむけた私たちの取り組み～

私たち農事組合法人大地のめぐみでは、17の目標のうち8つの達成を目指しています。



こども食堂への食材提供に協力



農業の担い手づくりをすすめています



大きなかぶ直売所より安心安全な農産物を皆様にお届けします。



サラブレット堆肥づくりエコプロジェクト
茨城農産品のブランド化の創出



学校給食へ野菜・米の供給、
出前授業や農業体験学習



耕作放棄地・竹林整備や市民農園の活用



太陽光発電で
再生可能エネルギーを



グリーンツーリズムの取り組み
～都市生活者の収穫体験や農村交流～

1 貧困を
なくそう



子ども食堂への食材提供に協力

『子どもの貧困』が大きな社会問題となっています。また社会のひずみの拡大とともに、心身に障害を持つ人も増えています。

子ども食堂サポートセンターいばらきによると、子ども食堂は茨城県内に、55カ所（県北8、県中14、県西9、県南19、鹿行5）で開設しています。

茨城ふるさと産直ネットワークを通じて定期的に規格外品の野菜や果樹などを提供する取り組みに協力しています。



2 飢餓を
ゼロに



大きなかぶ直売所（阿見店・板橋店）より安全 安心な農産物を皆様にお届けします！

食料自給率37%という先進国の中で際立つ低さの日本。消費者の皆様にも喜んでもらい自給率向上を目指します。

2019年5月に「大きなかぶ直売所」を阿見町小池に新規オープン。地域の消費者の毎日の生活に欠かせない存在となり、新鮮で美味しい野菜・果物を求める多くのファンに支えられています。

2020年8月には東京都板橋区に出店。茨城の野菜を都内消費者に届けています。



4 質の高い教育を
みんなに



学校給食への供給、出前授業や 農業体験学習

地元阿見町との学校給食年間24品目、茨城県地場産利用品目数8年間第1位です。都内小中学校にもお米を供給。地元小学校へ食育講演授業も行っていました。

また、都内小学校の田植え授業や地元高校生の農作業体験など農作業を通じて農業・食料の大切さを子どもたちに教えています。



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



太陽光発電で再生可能エネルギーを

2014年から3市町村（つくばみらい市、阿見町、美浦村）において、6基分の太陽光発電システムを稼働させています。

年間合計およそ50万kwhを発電しており、1世帯の電気消費量に換算すると**138.8世帯分**の消費電力に相当する量を発電しています。

※1世帯当たりの電気使用量月300kwh×12か月=3,600kwh
500,000kwh ÷ 3,600kwh =138.8世帯



8 働きがいも
経済成長も



農業の担い手づくりをすすめています

農業に関心を持つ若者も増えています。こうした若者に、経済的な安定と働きがいを与えるような農業としていくことが大切です。

農業の担い手づくりのために、雇用農業や集落営農、法人化を推進し、合わせて経営規模と省力化を進め、生協を始めとする卸販売を拡充しています。



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



サラブレッド堆肥づくりエコプロジェクト 茨城農産品のブランド化の創出

農業を継続していくため農業界以外の他産業や、研究機関としての大学、行政など異業種の方々と連携して諸課題を解決させる取り組みとして **「産学官連携」**を行っています。

美浦村のトレセンで排出されたサラブレッド馬ふんを、茨城大学農学部と連携して堆肥化し、大地のめぐみ農家に使用してもらっています。

健康な土で栽培された良質野菜を生産して、ブランド化販売をすすめています。



11 住み続けられる
まちづくりを



耕作放棄地・竹林整備や 市民農園の活用

農村の耕作放棄地が進む中で、里山・農村風景を守る活動、竹林整備を地域住民とともにすすめています。

市民農園「レンタルファームふれあい」を開設し、一般市民にも楽しくて魅力的な野菜づくりをすすめています。



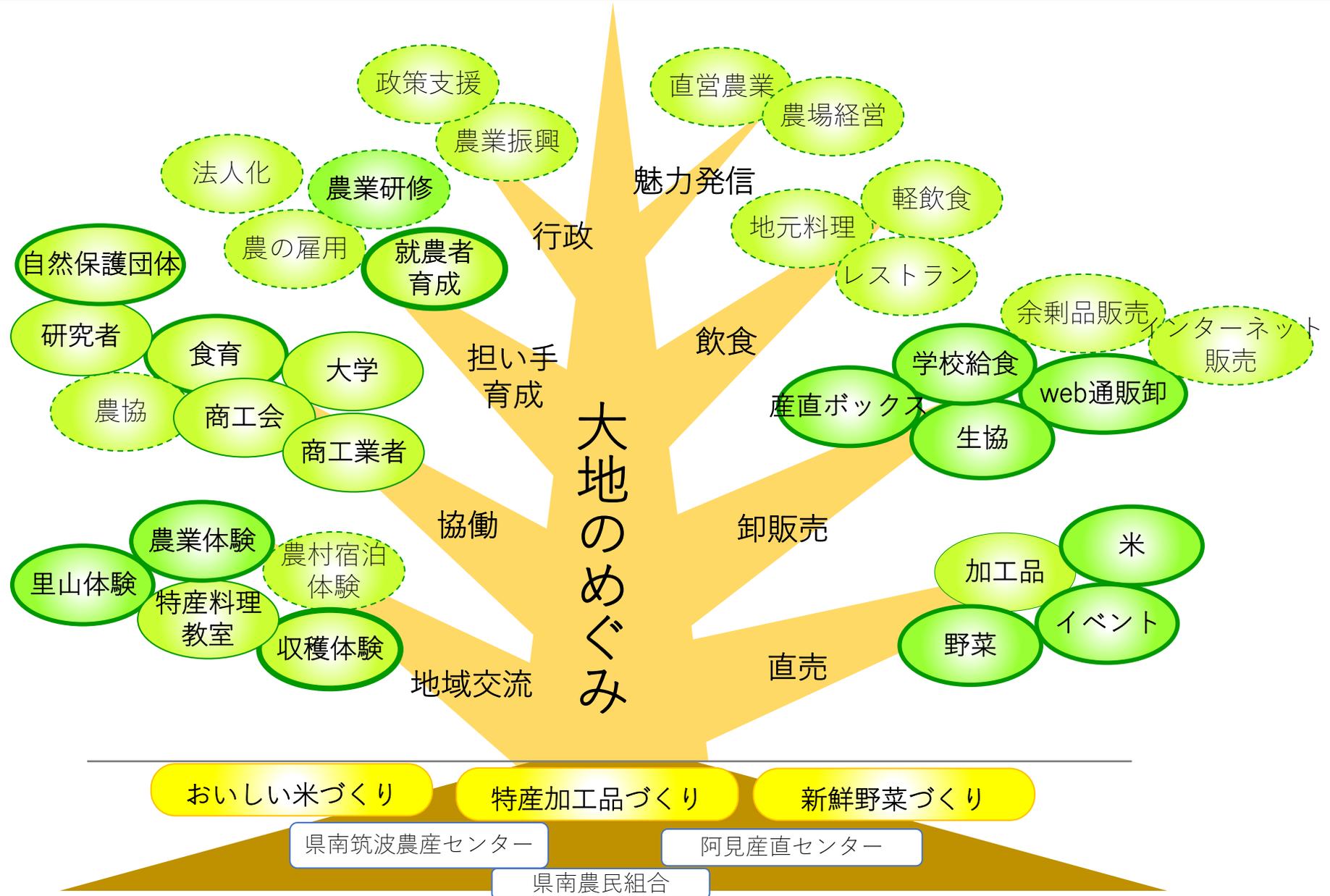


グリーンツーリズムの取り組み ～都市生活者の収穫体験や農村交流～

農村資源（田畑・山林・竹林・里山・古民家・農村景観）を活用し、収穫、農業、里山体験等を行い、農村と農業の魅力や価値をアピールしています。
合わせて食育、食農教育を行っています。



～SDGs×大地のめぐみ 持続可能な社会にむけた私たちの取り組み～



私たちは、「好きな農業で暮らしを続けたい、地域の農業を守りたい」と願う農業者と、「家族の健康を守れる安全で美味しい農産物がほしい」とを望む消費者との想いを実現するために、1990年県南農民組合の産直部として、13人の生産者で阿見有機農産物供給センターを立ち上げました。2002年に「(農)いばらき県南阿見産直センター」として法人化し、2017年には、米事業中心の産直組織「(農)県南筑波農産センター」と合併して組織運営能力強化を図り、名称を今の「(農)大地のめぐみ」となりました。

さらに2018年5月には事業所を阿見町小池に事務所移転し、併せて今までの直売所の1.5倍の売場面積を誇る「大きなかぶ農産物直売所」を新設いたしました。

地域との共生を求め、「健康な土をつくり、生命力あふれる作物を育て、人の命を育む」として、人と環境にやさしい持続可能な環境保全型農業に取り組んでおり、消費者のご家族の健康と農業者の営農をまもるために日々奮闘してまいります。

農事組合法人 大地のめぐみ
代表理事 中島悟

